

女性の想いが地域を変える

愛知東農業協同組合 女性部 部長 加藤久美子

「ねえ聞いた?Aコープなくなるだって!」
「えっそんなの困るじゃん。これからどうなる
だやあ」私が住む愛知県新城市八名地域は人
口約5千人、少子高齢化が進む中山間地域で
Aコープは買い物だけではなく集いの場にも
なっていたため、地域は不穏な空気に包まれ
ていました。「なんとかせにゃ」と立ち上った
のは、私たち女性5名。新城市には自治基
本条例・地域自治区制度があり、八名地域協
議会に属する私たちは日頃から地域の困りご
とを協議していました。またJA女性部員や生
協組合員・地域の役員を担う方も多く、Aコ
ープ閉店による地域の衰退を危惧し、連日連
夜話しました。「Aコープの場所は地域の中心
地、今までの賑(にぎわ)いがとぎれないよう何かをやる
ろう。そうだと朝市はどう?Aコープの軒下借り
て地元野菜や家にある物を持ち寄って何でも
朝市としてやろう」。善は急げとJAへ相談し、
閉店からわずか13日で何でも朝市がスタート
しました。毎週末午前8時から10時、対面販
売を原則にお互いの顔を見ながら情報交換。
「元気?ありがとね。またね」と明るい声が飛
び交っています。

ゼロから始めた朝市も「やなマルシェ」とし
て日々模索しながら続けています。2年目は店
内も借りられ暑さ寒さもしのげるようになり
ました。3年目には私たちのお弁当や総菜を作
りたいなど、地域に対する想いを経営会議や
理事会で共感いただき承認(ちゅうほう)されました。厨房
が使えるようになり、地産地消でお母さんの手
作り弁当や総菜を販売しています。4・5年
目はコロナ禍で思うように活動できませんで
したが、会えない期間を経てお互いを気遣い、
仲間の絆が深まったように感じます。

朝市を開催する中で、JA女性部員だけでは
なく地域の男性や子どもも積極的に参加する
仕組みが必要と感じ「やなまるっ人(と)」を立
ち上げました。この地域では遊休農地が多く、

楽しみながら農業をやろうと「まるっ人(と)
農園」としてよみがえらせ、食育活動として
こども園の園児とサツマイモのツル挿しをし
て育て、イモ掘りをしたり、コスモスの種を
まき、花いっぱいのコスモス畑を試みていま
す。今は男性の活躍で石窯を製作中。農園で
採れた野菜でピザ作りを心待ちにしています。

地元中学校の総合学習では、「やなマルシェ
活性化」をテーマに店舗の外観やレイアウト、
八名弁当や八名丸バーガーまで考案してくれ
ました。「いつかやなマルシェで販売するから
ね」と約束しました。また、行政初の試みで
地元中学生議会在結成され、やなマルシェと
コラボして、地域と中学生が共に地域を活性
化する企画を提案し、夕涼み会、ハロウィン、
クリスマスマーケットを開催しました。先生
も交えて準備、当日は中学生が指揮し大勢の
方で賑(にぎわ)い大成功でした。地域の方は、「中学生
の頑張りに勇気をもらえた」と、中学生も「地
域の伝統となるよう続けるぞ」と意気込んで
います。

さらに、小さな子を育てる親の交流の場がな
く悩んでいる人のために「まるっ子くらぶ」、
はつらつ世代は健康に関する事がやりたいと
「まるまるサロン」、高齢による認知症や介護
の相談の場として「結カフェ」を立ち上げ、行政
や社協、専門家と共に定期開催をしています。

しかし、全てボランティアによる活動に限
界も見えてきました。今後は維持継続のため
“稼ぐ”ことを視野に入れ、JA愛知東が取り
組む高齢者支援の宅食サービスや家事援助サ
ービスを、協同組合の合言葉「お互い様」の
気持ちで、地域ぐるみで参加し報酬を得る仕
組みづくりを考えていきます。この地域でい
つまでも元気で楽しく暮らし続けられるよう、
夢は大きく目標は手の届く小さなもので達成
感を味わいながら頑張ります。

(かとう くみこ)